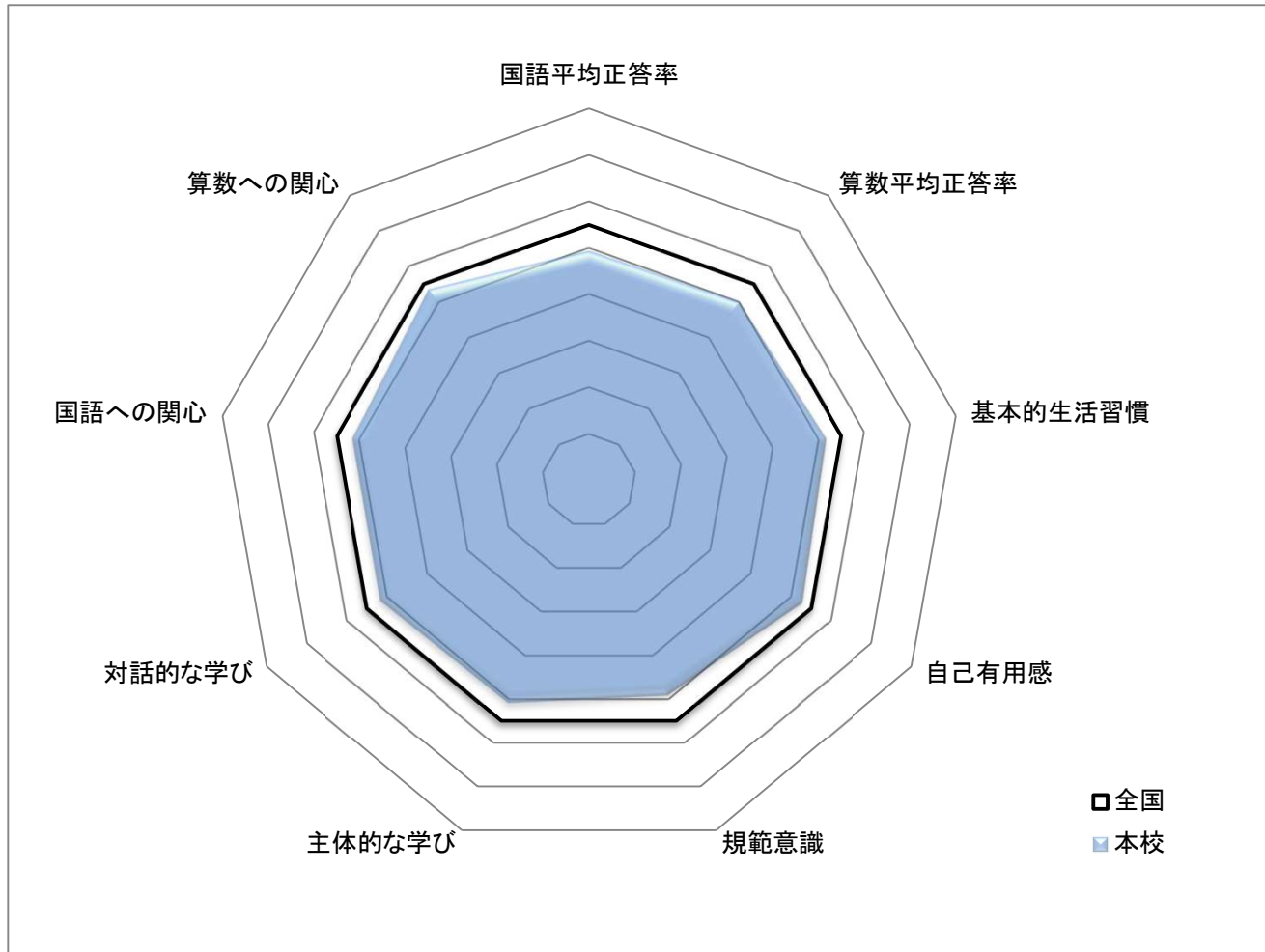


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語では正答数9～14問の比較的学力が高い児童の割合が、東京都、全国と比べて低い。
- ・国語では、正答数0～6問の学力定着に課題のある児童の割合が、東京都、全国と比べて高い。
- ・算数、国語共に平均正答数、教科への関心等で全国平均を下回っている。
- ・算数では正答数12～16問の比較的学力が高い児童の割合が、東京都、全国と比べて低い。
- ・算数では、正答数0～4問の学力定着に課題のある児童の割合が、東京都、全国と比べて高い。

《授業改善のポイント》

- ・C層児童を中心に指導の個別最適化を図る必要がある。前学年までの学習内容につまずきがある児童が多いため、授業の導入等で本時に関わりのある既習事項を復習できるようにする。
- ・算数科ではC層児童の指導を中心に、取り扱う問題を精選する必要がある。
- ・中間層児童をA層に引き上げるため、算数科では学習の個性化を図り、一単位時間に解く問題数を増やせるようにする。また、課題を終えた児童がタブレット端末を活用して発展的な内容の学習に取り組めるようにする。
- ・児童が課題解決につまずいた際には、友達と対話的に課題解決できるような環境をつくる。

《チャートの特徴》

- ・項目における大きな偏りがない。
- ・全体的に平均値から低い傾向にある。
- ・規範意識については全国平均値に近い値になっている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者会や面談等で家庭学習への取組を増やすよう働きかける。
- ・学校から示した家庭学習を確実に実施するように周知する。
- ・スマートフォンやiPadを操作したり、見たりする時間を減らすように保護者に働きかける。